

令和7年度 秋期
プロジェクトマネージャ試験
午前Ⅱ 問題

試験時間

10:50～11:30 (40分)

注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
試験時間中は、退室できません。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問1～問25
選択方法	全問必須

5. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) 答案用紙は光学式読取り装置で読み取った上で採点しますので、B 又は HB の黒鉛筆で答案用紙のマークの記入方法のとおりマークしてください。マークの濃度がうすいなど、マークの記入方法のとおり正しくマークされていない場合は、読み取れないことがあります。特にシャープペンシルを使用する際には、マークの濃度に十分注意してください。訂正の場合は、あとが残らないように消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないでください。
 - (2) 受験番号欄に受験番号を、生年月日欄に受験票の生年月日を記入及びマークしてください。答案用紙のマークの記入方法のとおりマークされていない場合は、採点されないことがあります。生年月日欄については、受験票の生年月日を訂正した場合でも、訂正前の生年月日を記入及びマークしてください。
 - (3) 解答は、次の例題にならって、解答欄に一つだけマークしてください。答案用紙のマークの記入方法のとおりマークされていない場合は、採点されません。

〔例題〕 秋期の情報処理技術者試験が実施される月はどれか。

ア 8 イ 9 ウ 10 エ 11

正しい答えは“ウ 10”ですから、次のようにマークしてください。

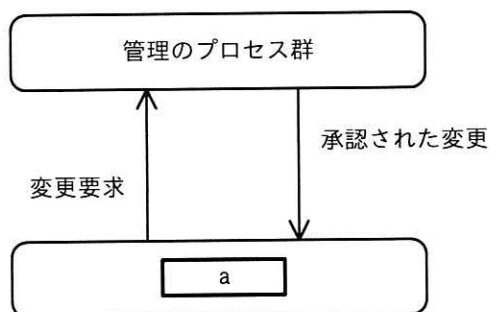
例題	ア	イ	ウ	エ
----	---	---	---	---

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

問1 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）によれば、プロジェクトガバナンスを維持する責任は誰にあるか。

- ア プロジェクトの管理面でプロジェクトマネージャを支援するプロジェクトマネジメントチーム
- イ プロジェクトの計画から終結までのプロセスを指揮するプロジェクトマネージャ
- ウ プロジェクトの要求事項を明確にし、プロジェクトの成果を享受する顧客
- エ プロジェクトを許可し、経営的決定を下すプロジェクトスポンサ、又は上級レベルでの指導を行うプロジェクト運営委員会

問2 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）において、“変更要求”によって“管理のプロセス群”に作用し、その結果である“承認された変更”によって“管理のプロセス群”から作用されるプロセス群がある。図中のaに入れる適切な字句はどれか。



- | | |
|------------|--------------|
| ア 計画のプロセス群 | イ 実行のプロセス群 |
| ウ 終結のプロセス群 | エ 立ち上げのプロセス群 |

問3 プロジェクトの成果を予測する際に用いる回帰分析の説明はどれか。

- ア アウトプットとこれに対応した一連のインプット変数との関係について多数のデータを用いて分析し、統計学的関係を明らかにする。
- イ 差異、欠陥、又はリスクを引き起こす根源的な理由を明らかにする。
- ウ ベースラインと実際のパフォーマンスについて、違いが生じた原因と、違いの度合いを判定する。
- エ 予算、コスト、スケジュール、又はスコープのパラメータとベースラインとの差異を判定し、これに基づいて将来のある時点におけるパラメータのベースラインからの差異を予測する。

問4 プロジェクトマネジメントにおいて、スコープクリープが発生する原因となり得る事例はどれか。

- ア スコープの大幅な拡大が必要となったので、変更要求の承認を得た。
- イ 設計中の機能を拡充するための軽微な変更要求と判断したので、コストや工数を見積もることなく、設計作業を推進した。
- ウ プロジェクト初期に定義した成果物及び作業を変更する必要はないが、作業工数の見積りが過小であった。
- エ 変更要求によるスコープの拡大を変更管理委員会に諮ったが、承認されなかった。

問5 ホーソン効果の、システム開発プロジェクトにおける例として、適切なものはどれか。

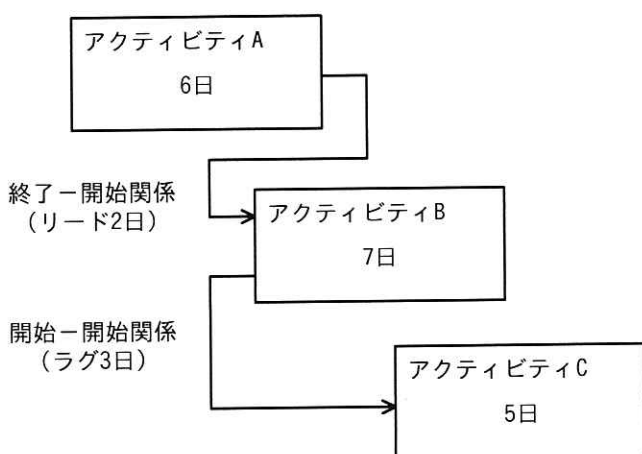
ア 開発サイクルごとの成果物のレビューで、ある開発チームの成果物がプロダクトオーナーに注目されたことによって、その開発チームの士気が上がり、その後の生産性が向上した。

イ 開発チーム別の進捗報告会で、遅れを報告したチームは優秀なチームだったので、遅れは挽回^{ばん}可能であるという報告を信用したが、次の進捗報告で遅れが拡大した。

ウ 結合テストで3件の誤りが検出され、そのうちの2件の誤りが同一のモジュールに起因していたので、残りの1件もそのモジュールに起因していると思い込んで調査したが、そのモジュールから誤りは検出できなかった。

エ 全ての利用者が満足する UI を開発するという達成困難な目標を開発チームに対して設定したので、開発チームの士気が下がり、その後の生産性が低下した。

問6 図は、実施する三つのアクティビティについて、プレシデンスダイアグラム法を用いて、依存関係及び必要な作業日数を示したものである。全ての作業を完了するための所要日数は最少で何日か。



ア 11

イ 12

ウ 13

エ 14

問7 図1に示すプロジェクト活動は、作業Cの終了がこの計画から2日遅れたので、このままでは当初に計画した総所要日数で終了できなくなった。

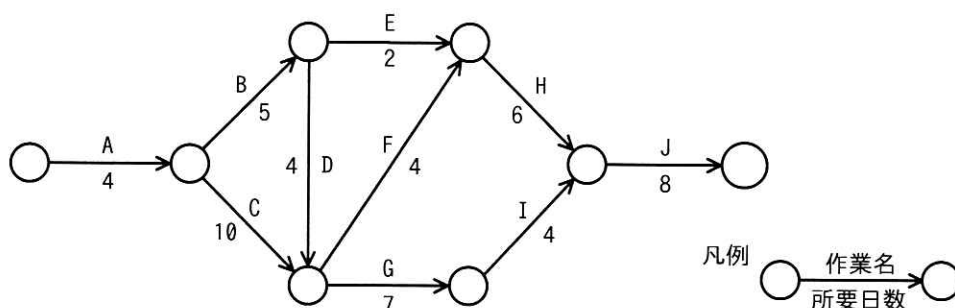


図1 プロジェクト活動（当初計画）

作業を見直したところ、作業Iは作業Gの全てが完了していなくても開始できることが分かったので、ファストトラッキングを適用して、図2に示すように計画を変更した。計画変更後の総所要日数は当初計画と比べてどのように変化するか。

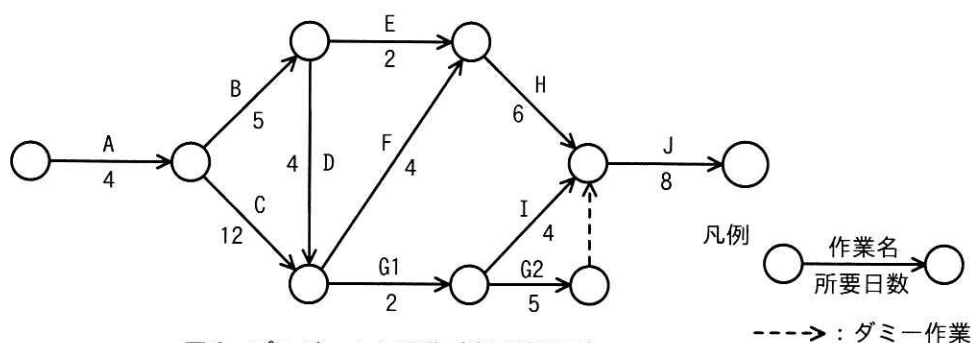


図2 プロジェクト活動（変更後計画）

ア 4日減少する イ 2日減少する ウ 1日増加する エ 2日増加する

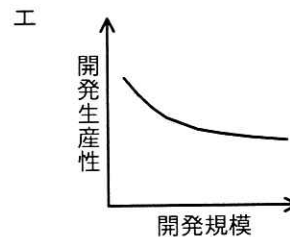
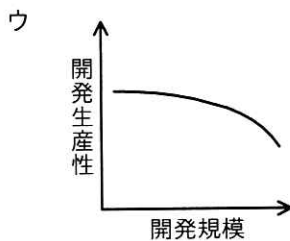
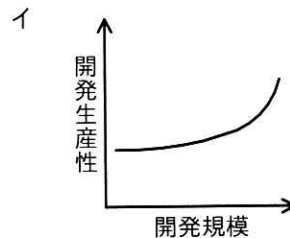
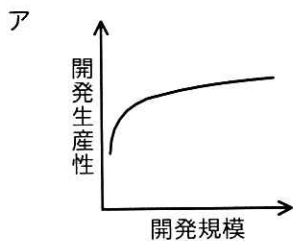
問8 プロジェクトのスケジュール管理で使用する“クリティカルチェーン法”の実施例はどれか。

- ア 限りある資源とプロジェクトの不確実性に対応するために、合流バッファとプロジェクトバッファとを設ける。
- イ クリティカルパス上の作業に、生産性を向上させるための開発ツールを導入する。
- ウ クリティカルパス上の作業に、要員を追加投入する。
- エ クリティカルパス上の先行作業が終了する前に後続作業に着手し、双方の作業を並行して実施する。

問9 COCOMO には、システム開発の工数を見積もる式の一つとして次式がある。

$$\text{開発工数} = 3.0 \times (\text{開発規模})^{1.12}$$

この式を基に、開発規模と開発生産性（開発規模 ÷ 開発工数）の関係を表したグラフはどれか。ここで、開発工数の単位は人月、開発規模の単位はキロ行とする。



問10 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）によれば、プロセス“リスクの特定”及びプロセス“リスクの評価”は、どのプロセス群に属するか。

ア 管理

イ 計画

ウ 実行

エ 終結

問11 表は、プロジェクトのコミュニケーション計画において作成した“会議体の一覧”である。5W1Hの指針に照らしたときに、不足している項目はどれか。

〔会議体の一覧〕

名称	目的	内容	開催日	形式	場所
プロジェクト内定例報告会	プロジェクトチーム内での情報共有	プロジェクトの進捗と課題の状況を確認する	毎週木曜日	対面	自社会議室
顧客定例報告会	顧客との情報共有	プロジェクトの進捗と課題の状況を報告する	毎週金曜日	Web	自社会議室，顧客会議室
ステアリングコミッティ	プロジェクトの重要な意思決定	重要な課題や問題を報告し，方針を決定する	意思決定が必要なとき	対面	自社役員会議室

ア 会議室の利用料

イ 重要度

ウ 主催者及び参加者

エ 成果物

問12 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）によれば，プロセス“コミュニケーションの計画”の目的はどれか。

- ア プロジェクトに影響されるか，又は影響を及ぼす個人，集団又は組織を明らかにし，その利害及び関係に関連する情報を文書化すること
- イ プロジェクトのステークホルダに対し，要求した情報を利用可能にすること及び情報に対する予期せぬ具体的な要求に対応すること
- ウ プロジェクトのステークホルダのコミュニケーションニーズを確実に満足し，コミュニケーションの問題が発生したときにそれを解決すること
- エ プロジェクトのステークホルダの情報及びコミュニケーションのニーズを決定すること

問13 アジャイル開発プロセスにおいて，Bill Wake が提案した“INVEST”と呼ばれる六つの観点を用いて行うことはどれか。

- ア 効率よくアクティビティ図を作成する。
- イ コード化できるレベルまで詳細化されたデータフロー図を作成する。
- ウ 再利用しやすいソフトウェアパターンとなっているかどうかを評価する。
- エ 質の高いユーザーストーリーとなっているかどうかを評価する。

問14 JIS X 0160 : 2021（ソフトウェアライフサイクルプロセス）によれば、テクニカルプロセスの一つである妥当性確認プロセスの目的はどれか。

ア システムがその利用中に、意図された運用環境で意図された用途を達成することで、そのビジネス又はミッションの目標及び利害関係者要件（要求事項）を満たすという客観的証拠を提供する。

イ システム又はシステム要素がその指定された要件（要求事項）及び特性を満たしていることの客観的な証拠を提供する。

ウ 製品、サービス及びプロセスの品質について、効果的な管理を支援し、これらの品質を実証するために、これらに関する客観的なデータ及び情報を収集し、分析し、報告する。

エ 組織の品質管理プロセスのプロジェクトへの効果的な適用を確実なものにするよう支援する。

問15 スクラムを適用している開発において、スプリントの途中で開発チームだけの判断で変更できるものはどれか。

ア スプリントゴール

イ スプリントバックログ

ウ 品質

エ プロダクトバックログ

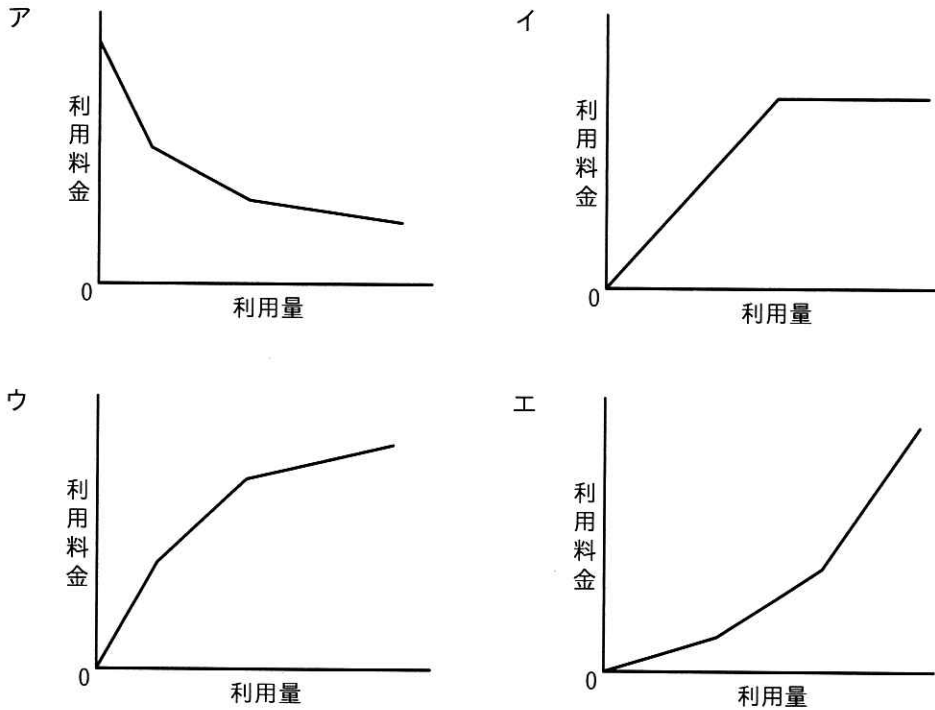
問16 JIS X 33002:2017（プロセスアセスメント実施に対する要求事項）の説明として、適切なものはどれか。

- ア 組織のプロセスを継続的に改善して品質を高めるための要求事項を規定している。
- イ 組織プロセスの品質を客観的に診断するための要求事項を規定している。
- ウ プロジェクトの実施に重要で、かつ、影響を及ぼすプロジェクトマネジメントの概念及びプロセスに関する包括的な手引きを規定している。
- エ 明確に定義された用語を使用し、ソフトウェアライフサイクルプロセスの共通枠組みを規定している。

問17 バグトラッキングシステムの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア ソースコードを画面に表示しながら、プログラムの実行及び中断、変数の値の表示などの、バグの発見を支援する機能を提供する。
- イ テストケース及びテストプログラムの開発を支援して、バグの発見を容易にする。
- ウ バグの数とソースプログラムの諸元から、品質管理のためのメトリクスを算定する。
- エ 発見されたバグの内容、バグが発生したソフトウェアのバージョンなどを記録し、その修正計画や修正履歴を管理する。

問18 IT サービスにおけるコンピュータシステムの利用に対する課金を通減課金方式で行うときのグラフはどれか。



問19 プロジェクトマネジメントの進捗管理や課題管理だけでなく、サービスマネジメントのインシデント管理やサービス要求管理にも利用できる、次の特徴をもつ OSS はどれか。

〔特徴〕

- ・実施すべきタスクをチケットとして扱い、起票、調査、解決、クローズなどの状態を用いて、タスクの進捗が管理できる。
- ・チケットを利用したワークフローが実現できる。

ア Jenkins

イ Redmine

ウ Selenium

エ Zabbix

問20 利用者要件のうち、非機能要件項目はどれか。

- ア 新しい業務の在り方や運用に関わる業務手順，入出力情報，組織，責任，権限，業務上の制約などの項目
- イ 新しい業務の遂行に必要なアプリケーションシステムに関わる利用者の作業，システム機能の実現範囲，機能間の情報の流れなどの項目
- ウ 経営戦略や情報戦略に関わる経営上のニーズ，システム化・システム改善を必要とする業務上の課題，求められる成果・目標などの項目
- エ システム基盤に関わる可用性，性能，拡張性，運用性，保守性，移行性などの項目

問21 下請代金支払遅延等防止法の対象となる下請事業者から納品されたプログラムに，下請事業者側の事情を原因とする重大なバグが支払期日よりも前に発見され，プログラムの修正が必要となった。このとき，支払期日を改めて定めようとする場合，下請代金支払遅延等防止法で認められている期間（60日）の起算日はどれか。

- ア 当初のプログラムの検査が終了した日
- イ 当初のプログラムを下請事業者へ返却した日
- ウ 修正済プログラムが納品された日
- エ 修正済プログラムの検査が終了した日

問22 組織において、公益通報制度を運用する際に留意すべきこととして、適切なものはどれか。

- ア 公益通報制度について、利用方法の教育を行うとともに周知徹底を図らなければならない。
- イ 公益通報の受付窓口は、社内に設置しなければならない。
- ウ 公益通報の受付窓口は、従業員が所属する組織の長としなければならない。
- エ 公益通報は、氏名を明らかにして行わなければならない。

問23 多要素認証疲労攻撃の例はどれか。

- ア 顔認証で画面ロックを解除できるスマートフォンを攻撃者が不正に使い、所有者が疲労して寝ている隙にその寝顔を利用して画面ロックの解除を試みる。
- イ 攻撃者の用意した偽サイトに利用者を誘導し、利用者のパスワード、電話番号など認証に関する複数の要素を不正に取得する。
- ウ 多要素認証を利用可能なシステムの利用者に、攻撃者が“システムへの多要素認証でのログインが必要です”という偽の電子メールを繰り返し送り付け、利用者がうっかりログインしてしまうのを待つ。
- エ パスワード認証とスマートフォンへのプッシュ通知による認証を採用しているシステムにおいて、利用者がプッシュ通知の承認操作を行うまで、攻撃者が不正なログイン操作を繰り返す。

問24 組織の日常的な業務活動に係るリスクであり、過失による誤入力、情報システムの障害、内部者の不正などによって損失が発生するリスクが当てはまるもののどれか。

- | | |
|---------------|---------------|
| ア オペレーショナルリスク | イ 固有リスク |
| ウ 地政学的リスク | エ レピュテーションリスク |

問25 外部から侵入されたサーバ及びそのサーバに接続されていた記憶媒体を調査対象としてデジタルフォレンジックスを行うことになった。そのために、表に示す a～d を証拠として保全することにした。保全の順序のうち、揮発性の観点から、最も適切なものはどれか。

	証拠として保全するもの
a	遠隔にあるログサーバに記録された調査対象サーバのアクセスログ
b	調査対象サーバにインストールされていた会計ソフトのインストール用 CD
c	調査対象サーバのハードディスク上の表計算ファイル
d	調査対象サーバのルーティングテーブルの状態

ア a → c → d → b

イ b → c → a → d

ウ c → a → d → b

エ d → c → a → b

6. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
7. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。ただし、問題冊子を切り離して利用することはできません。
8. 試験時間中、机上に置けるものは、次のものに限ります。
なお、会場での貸出しは行っていません。
受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル（B 又は HB）、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（時計型ウェアラブル端末は除く。アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ポケットティッシュ、目薬
これら以外は机上に置けません。使用もできません。
9. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
10. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。
11. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。
12. 午後Ⅰの試験開始は 12:30 ですので、12:10 までに着席してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、™ 及び ® を明記していません。